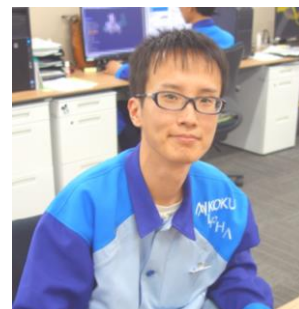


“面白おかしく 私らしく ”

<受賞しました> RH事業部 RA5G 永坂 雄一郎さん

入団 8 年目、組立・デザイナー（営業）を合計 1 年半経験し、その後、アタッチメント（つかみ具）設計をしています。二重に安全を確保して、シンプルな構造のアタッチメントを設計したことで、第 2S「商品性向上賞」を受賞しました。



私は、「聴く」ことを大切にしています。特に、加工や組み立ての方には、教えてもらいに行きます。パソコン上では設計できても、気が付かず特殊な加工が必要となってしまう時があります。多くの場合、RHの加工担当者は何とかがしてくれますが、『加工できるかー、そんなもん！』となって、設計のやり直しとなるのは避けたいので、製造の目線からのアドバイスは大変重要です。生産の流れの中では、設計は橋渡しの意味合いもあると思います。デザイナーの意向もあれば、製造の意向もあります。それらを理解した上で更に、私の「思い」を入れて設計することは重要だと考えています。

アタッチメントは、お客様が安全安心に使用できることを一番に考え、費用も抑えて、機能性があり回路も構成もシンプルに作ることを目指しています。言葉で表現すると“しっくり”くるアタッチメントですが、簡単ではありません。そんな中、デザイナーから『良かったよ！』と言われると、達成感につながります。デザイナーの声は、お客様の声と同じですから…。

将来の設計者像は、「柔軟な設計者」です。あんな方法、こんな方法、色んな発想をして、そこからベストを選択できるようになりたいです。それを実現するには、様々なことを取り入れながら経験を積んでいきたい、現実は違うかもしれないが、理想に近づけていきます。

<私も支えています> AP事業部 AQCG 長崎 伸哉さん

入団 4 年目、品質保証部門で、自動車用の量産インペラー（羽根車）を 2 年担当し、今は、大型インペラーを中心に検査を担当しています。これからどんどん経験を積んでいく段階です。



製品は、お客様に要求された寸法通りに入っているだけでなく、加工面の見た目なども大切だと思っています。例えば、納入先で余肉を取る工程がある製品では、確認さえ取ればわずかな傷は問題にはなりません。しかし、工夫をしてきれいな製品ができれば、それも技術ですし、信用・価値に繋がると考えています。その積み重ねで、“次もアイコクに頼もう”と思うはずです。

QC（品質管理）検定 2 級を取得しており、品質だけでなく費用削減にもその考え方は使えるので、エキスパートとして何か役に立てないかと考え、現場での会議で 5 分 10 分時間をもらい、活用法をお伝えする活動をしています。昨年の課題ラリーでは、受入自主検査の合理化に取り組みました。工程能力等の数値を出して、APルールとQC理論を考察し、検査方式として成立していることを証明し、数値による検査体制が確立できました。これは、QC検定の知識を用い、実際に達成できたことであり、自信になりました。

目標は、具体的ではありませんが、仕事を合理的に行いたいです。自分の仕事自体そのものに加えて、夢に近いことを言いますと、生技と生産設備と検査をネットワークでつなぐことで生産状況が解り、今以上にやりやすくなるのでは…？ と近い将来のAPの姿を思い描いています。